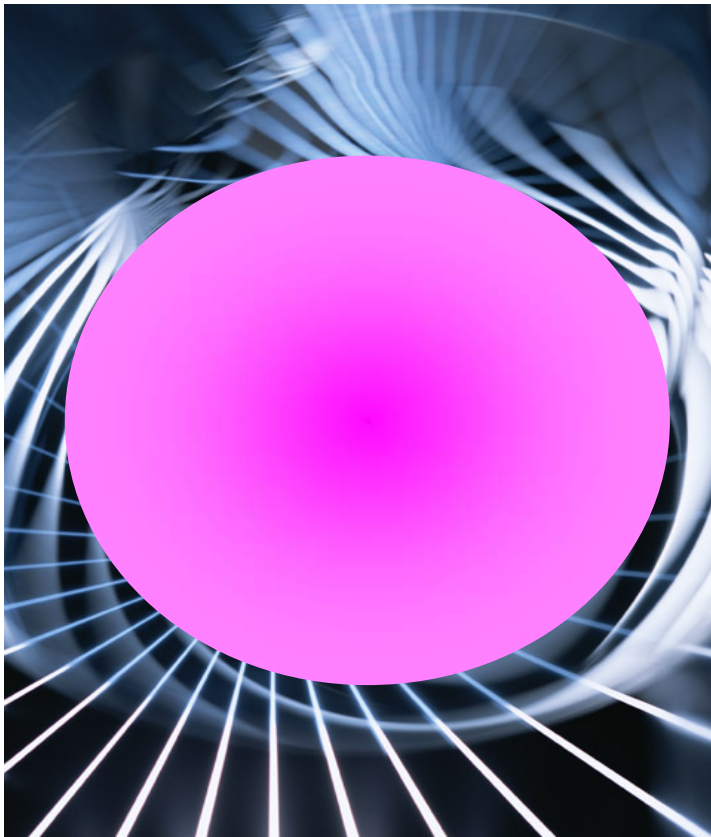


# グローバル化の中の高等教育



金子元久(教育学研究科)

2007年6月2日

‡:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

# もくじ

---

1 大学の国際性

2 グローバル化とそのリスク

3 日本の大学の課題

## 中世の大学(1)

---

- 原型大学
  - パリ
  - ボローニア
- その後ヨーロッパ中に広がった
- 右は15世紀末ヨーロッパの大学

著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

中世大学都市 分布図

## 中世の大学(2)

---

- 学生はヨーロッパ中から集まった
- 右はパリ大学の学生の出身地

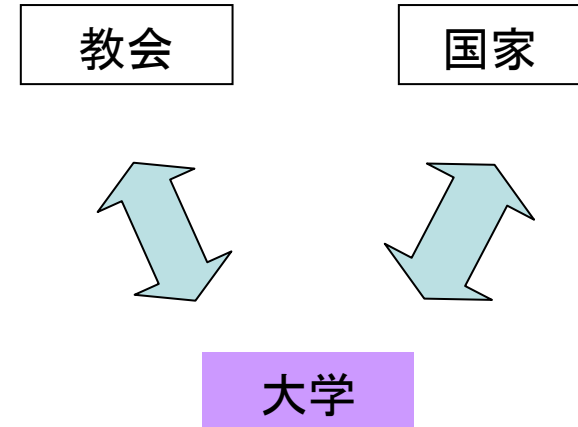
著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

中世大学都市 分布図

# 中世の大学(3)

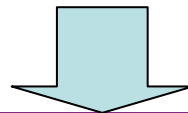
- **ギルドとしての大学**

- ユニベルシタス(Universitas)は学者のギルドという意味
- 国家あるいは教会に保護されたが直接に支配されていたのではない
- 国家の枠を超えることができる



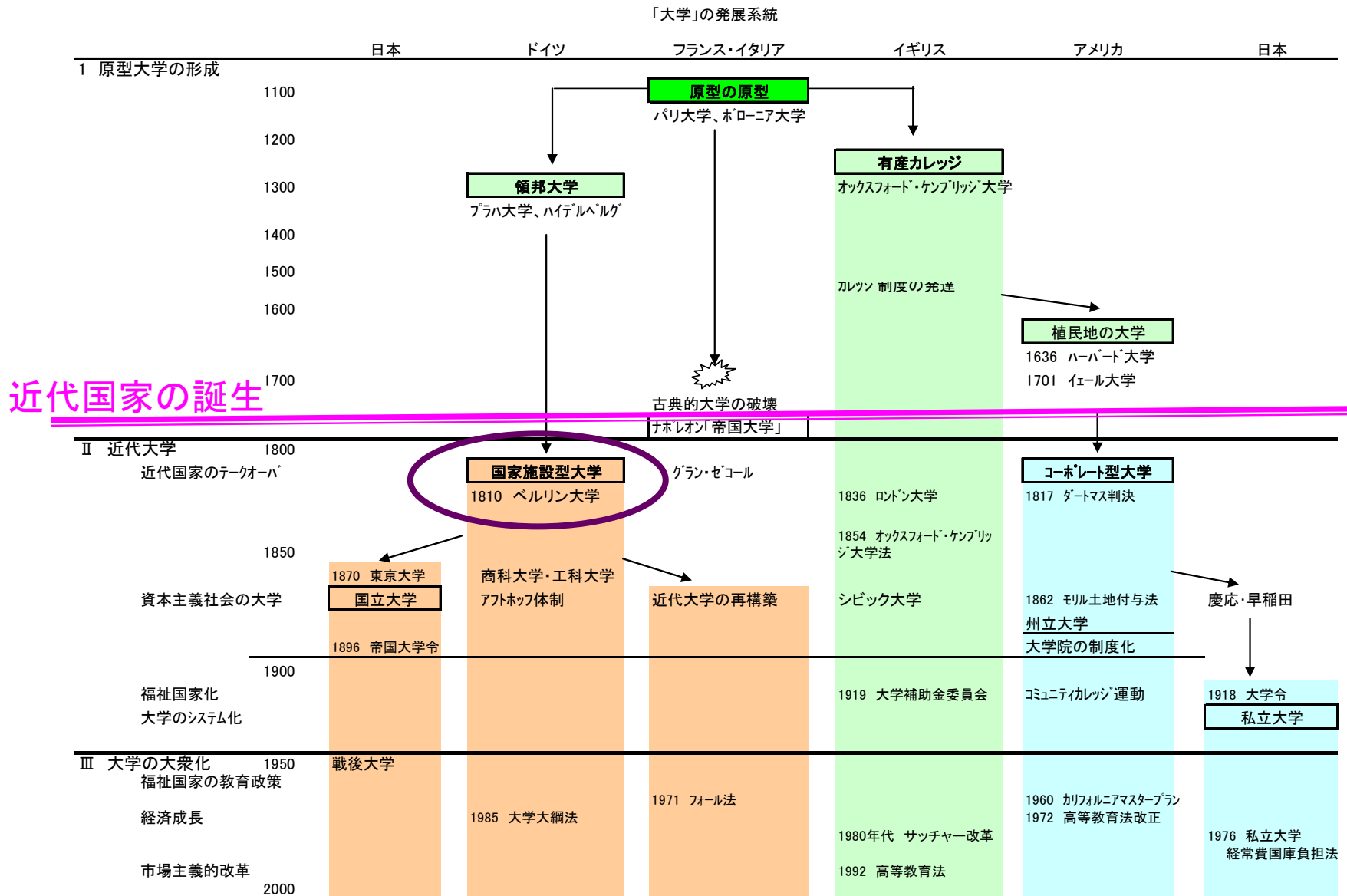
- **流動性**

- 大学から大学へと移動する教師、学生が多かった
- より良い条件、より良い教師
- それが**知的活力を生み出した**



西欧的**大学(Universitas)モデルの生産性**

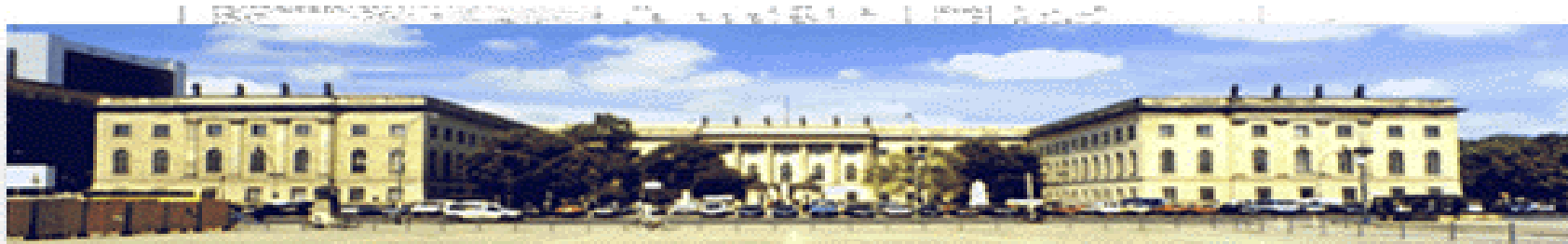
# 近代国家と大学(1)



## 近代国家と大学(2)

---

- ヘルリン大学(創設1810年)
  - 国家(新興国プロシア)の首都ベルリンによって新しく建設された
  - 文化国家の象徴としての大学
  - 大学の目的としての研究



**Humboldt-Universität zu Berlin**

## 近代大学(3)

---

- **ドイツの大学の強み**

- 政府の投資
- 小国(領邦)の並立
- 教員・学生の移動が固有のダイナミズムを作った
  - Joseph Ben-David, *Centers of Learning*

- **ドイツの影響**

- イギリスー 自然科学の再生
- アメリカー 19世紀の終わり
  - 研究機能の強化
  - 研究者の養成 – アメリカ型大学院
  - 複数の中心地と、その間の移動

- **日本の大学の形成**

- ドイツの影響が国際的にピークに達した時代に誕生
- 1878年東京大学、1886年 東京帝国大学



# もくじ

---

## 1 大学の国際性

## 2 グローバル化とそのリスク

## 3 日本の大学の課題

# 日本の大学と国際化(1)

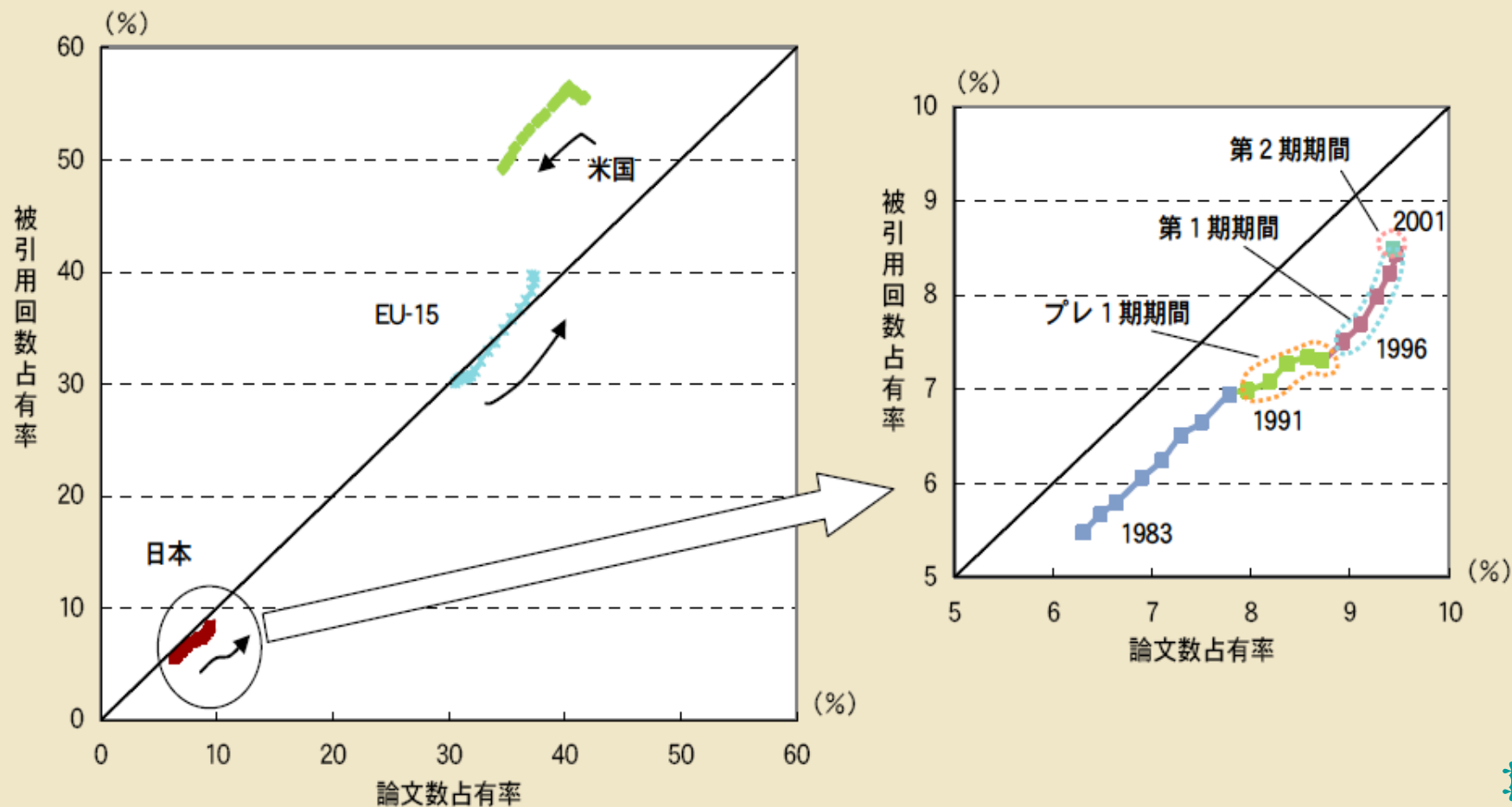
---

- 明治以降の日本の大学
  - 日本の中での研究教育の確立が課題
  - むしろ脱国際化する必要があった
- 小講座制
  - 一つの分野での研究・教育ユニット
  - 教授・助教授・助手・大学院生・学部学生で構成
  - 近代科学の導入と定着のために大きな役割を果たした
- 流動性は少ない
  - 中心的な大学に権限が集中する。中心と周辺とは交流
  - 中心間の流動性が弱い。
  - 結果として外国との流動性も低くなる

# 日本の大学と国際化(2)

第 1-2-42 図

日本・米国・EU-15の論文数、被引用回数占有率の推移



## 日本の大学と国際化(3)

---

- 国際ランキングの中の日本の大学

著作権の都合により、下記の図版を削除しました。

大学 国際ランキング

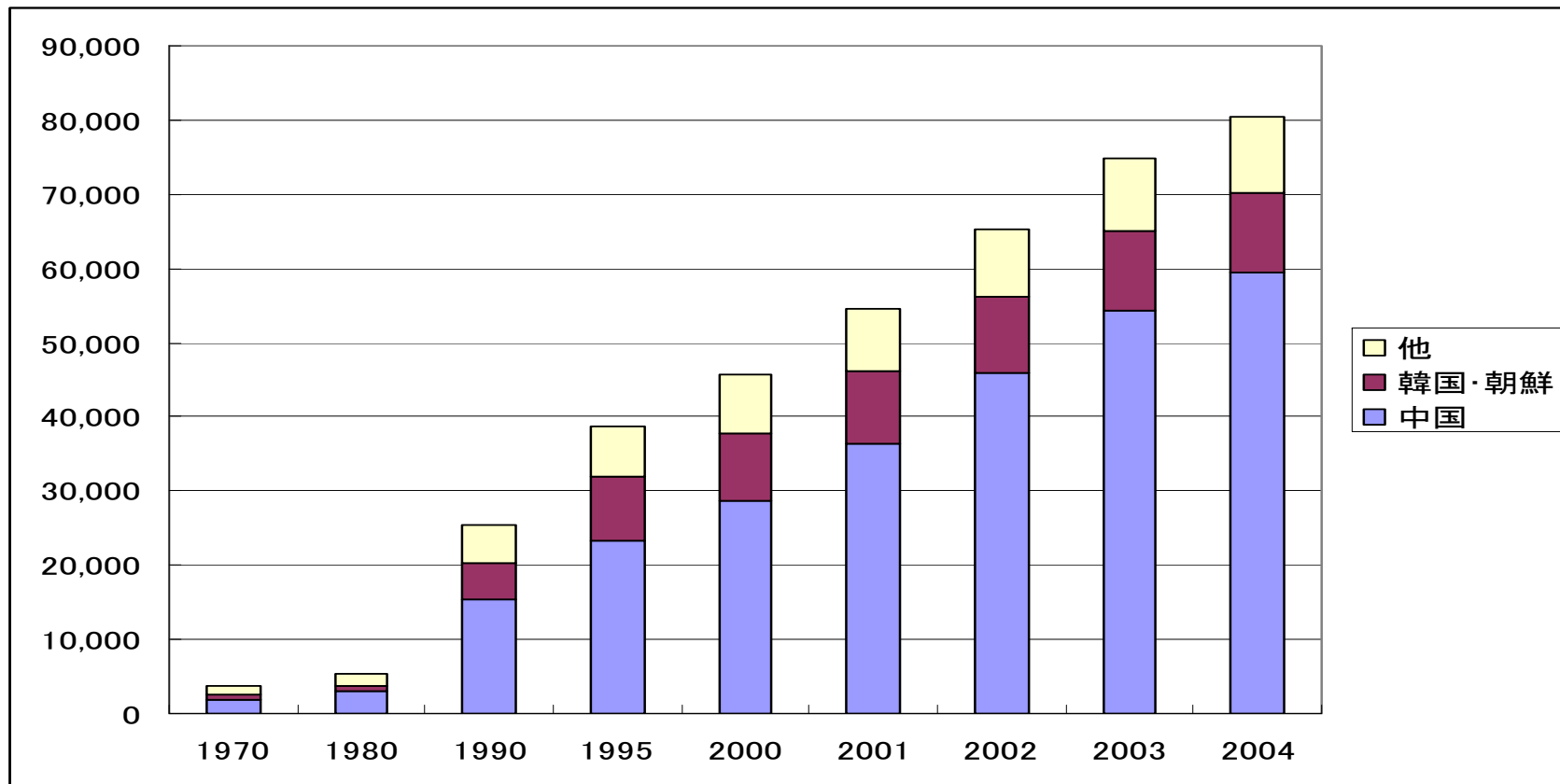
## 日本の大学と国際化(4)

---

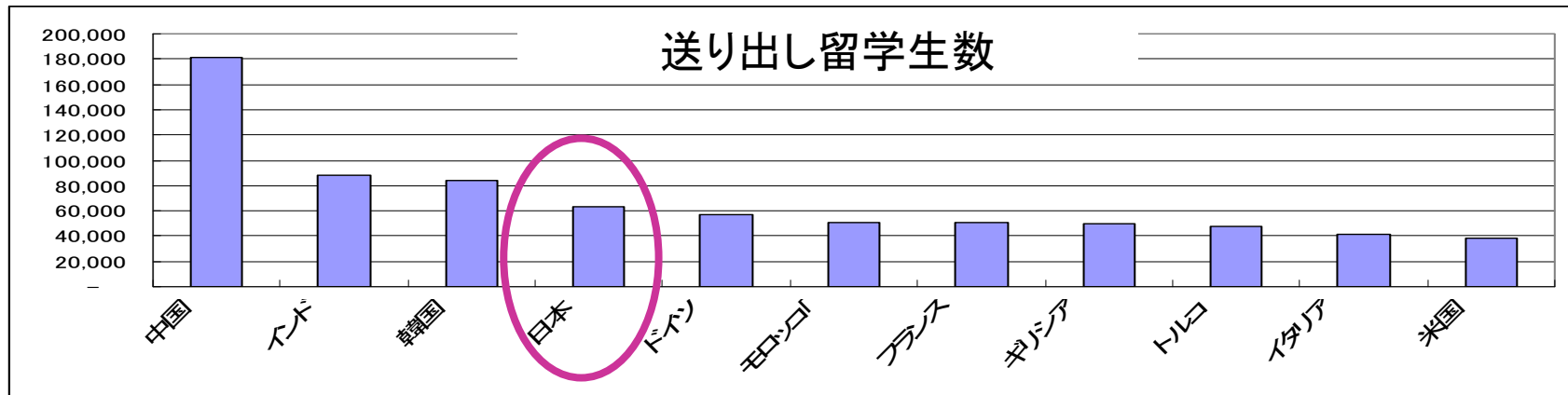
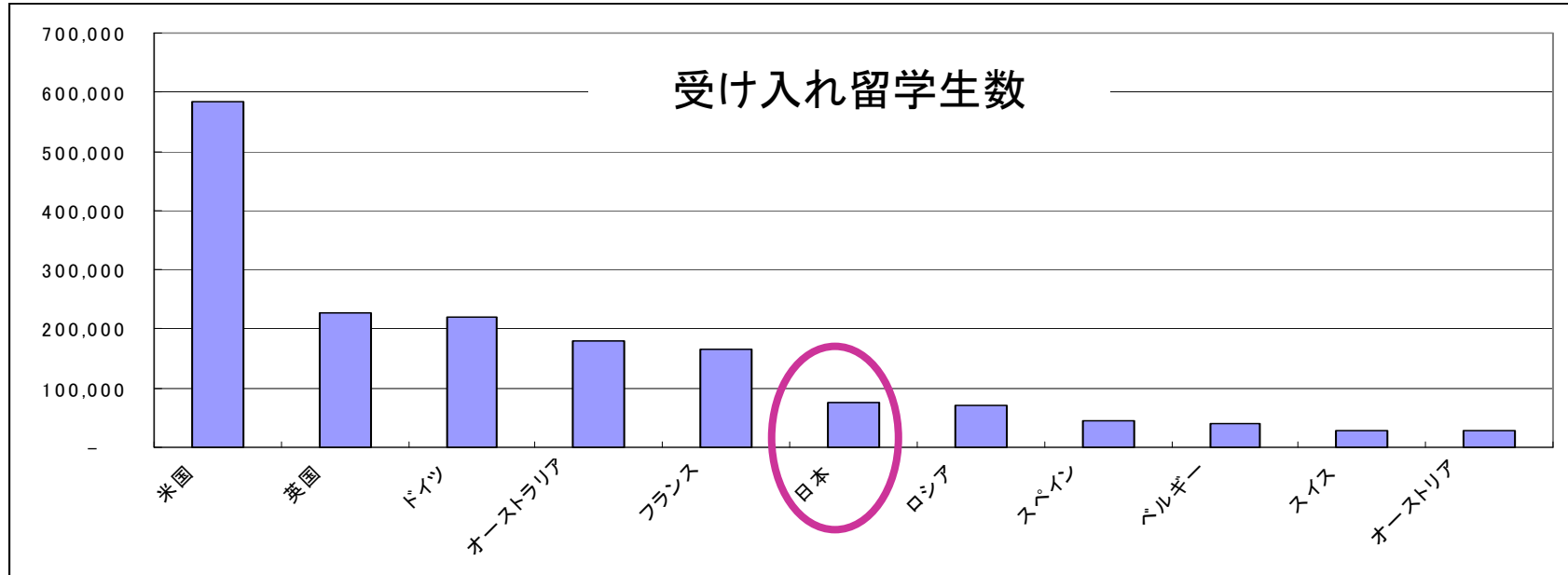
- 日本の研究論文の特徴
  - 国際的な雑誌に受け入れられる論文数は決して少なくない
    - 東大はハーバードについて世界で2番目
  - 被引用数が少ない
  - 質の問題だけではない。研究者の間のネットワークが重要
- 東京大学の国際ランクはなぜ低いか
  - 国際的なピアレビュー
  - 企業(雇用者)の評価
  - 外国人教員、外国人留学生の割合
- 国際的なネットワークに入っていないこと自体が評価を抑えている

# 学生交流(1)

- 日本への留学生は増加し、現在8万人
- 中国からの留学生が7割をしめる



# 学生交流(2)



## 学生交流(3)

---

- 受け入れ—中国の経済開放が日本への留学需要を作っている
  - 大学院が中心
  - 中国の大学が拡大すれば状況は変わる可能性がある
  - 質の転換が必要
- 日本からの留学生
  - 短期留学は出身大学の教育と結びついていない
  - 長期留学は、英語によるコミュニケーション能力が高い商品価値をもつと思われている。しかし語学能力だけをもつ人材の商品価値は少ない
- 学部教育の国際交流が弱い・日本の大学教育との有機的な関連が少ない



# 高等教育の国際市場化(1)

---

- WTO-GATS

- サービスの国際貿易の自由化へのうごき
- 高等教育はサービス輸出
- 営利大学が後押しをしている

- オフショア大学、ブランチ・キャンパス

- 第三国に大学をつくって、そこに他の国からの学生を入れる
- 分校を作る

- イギリス、オーストラリア

- 戦略的輸出商品としての高等教育
- 留学生は、大学にとっても重要な収入源
- これらの国では留学生を受け入れることによる問題も生じている

# もくじ

---

1 大学の国際性

2 グローバル化の課題とリスク

3 日本の大学の課題

# 研究・大学院教育の流動化

---

- 教員、大学院生の流動化
  - 日本国内での流動性が、外国への閉鎖性を減らす
  - この意味で法人化は重要な意味をもつ
- 短期的な交流
  - 日本の大学院生に対する刺激の効果も大きい
  - 受け入れのための住宅、支援職員などのインフラが不可欠
- 東アジアでの地域協力
  - EUの地域内交流は、加盟各国に大きな刺激になっている
  - 東アジアの大学は力をつけている。中国の大学はすでに教える対象ではない。相互に利益がある交流が必要であるし、可能
  - 東アジア共通の課題があることも理解されている
  - 英語を使わないメリットも大きい

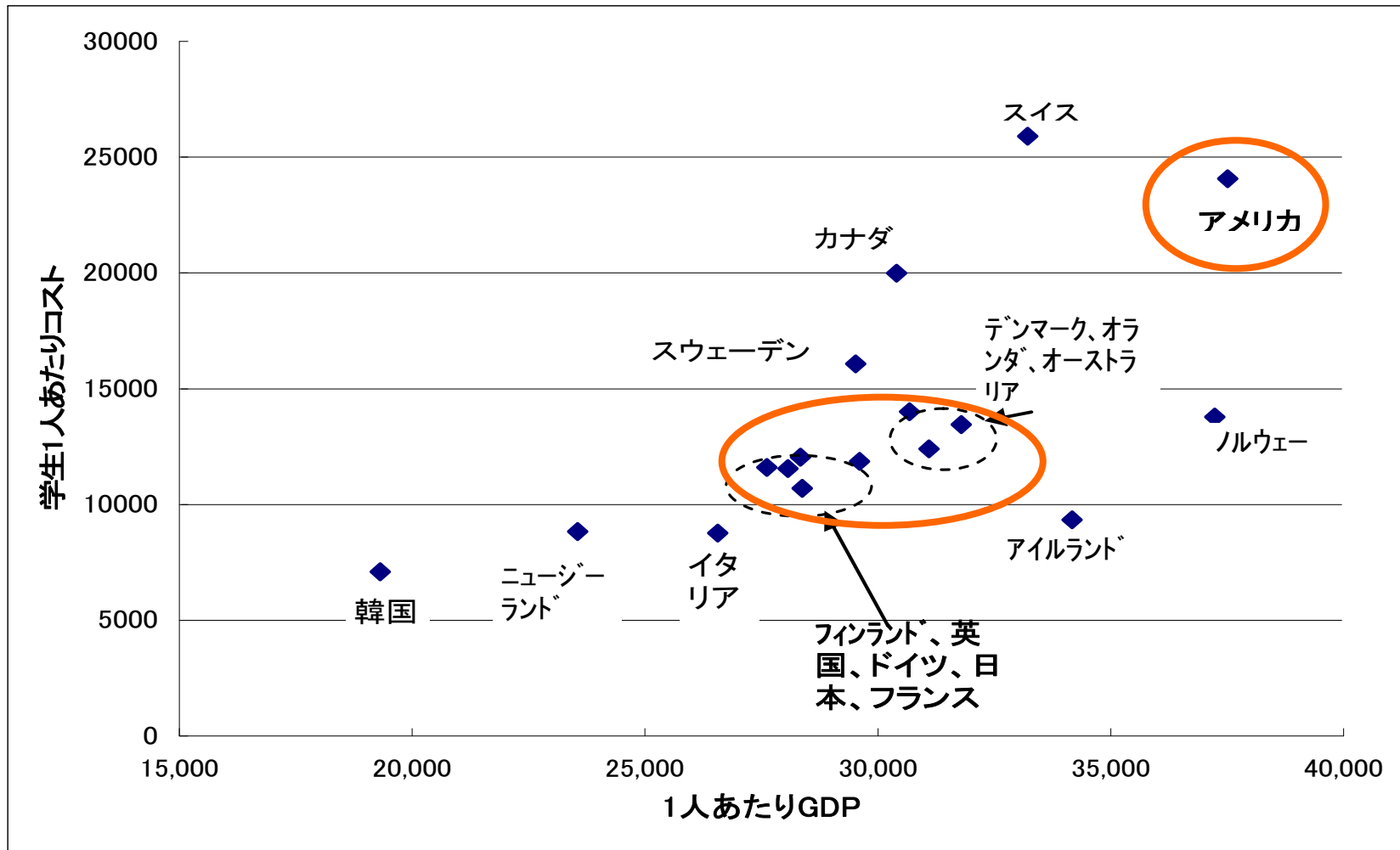
# 学部教育高度化のキーとしての国際化

---

- グローバル化をになう主体の形成
  - 論理性、コミュニケーション(異なる文化的背景を理解する)、意欲
  - 深い自己認識や、日本社会への見方の基礎
  - 広い意味での教養が不可欠
- 送りだし
  - 日本人の学生の短期留学(一年程度)
  - 日本の大学のカリキュラムと有機的に結合
  - 現在の学生は、直接的な深い体験がすくない。異文化体系は人間的な成長に非常に重要
- 日本の大学での、共通プログラム
  - 外国人学生と日本人学生が参加する授業を作る
  - 各学部ごとにやろうとすると困難
  - 全学共通のプログラムを作る

# 国際化のための財政的基盤

- 日本の大学教育への投資水準を引き上げる必要がある



ご静聴ありがとうございました

---

